



# 小学部 算数科 一題材の実践事例

題材名：『附特マーケット』で、注文に応じて乗法や除法で計算したり、商品の長さを測ったりして、商品をそろえたり、在庫を管理したりしよう

授業者：中島 拓也

## 学習指導要領の段階と内容

小学校 第2学年 A 数と計算 (3) 乗法

**知・技**：ア(ア)乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について  
 知ること。  
 ア(イ)乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

**思・判・表**：イ(ア)数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算  
 に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質  
 を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

**学 び**：数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、  
 数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養  
 う。

## 題材目標

知・技

『附特マーケット』で、注文に応じて商品をそろえる時、乗法の式が表す意味  
 や被乗数の数量と乗数の数量との関係がわかり、注文票を読み“●個ずつ×  
 いくつ分=”で立式し商品の総数を求める

思・判・表

注文票の内容に応じて商品の総数を求める時、商品一つ分に含まれる数量  
 を考え、用いる式を判断し、商品が同じ数量でまとまっているときは乗法で立  
 式し、商品が異なる数量でまとまっているときは加法で立式し、答えを求める

学 び

注文等の内容に応じて立式し、答えを求める課題に繰り返し正しく取り組む

## 教材と仕組み

教材名：『附特マーケット』

- ・スーパーの店員となり、注文票の内容に応じて乗法や除法で計算したり、商品の長さを測ったりして必要な商品をそろえる。
- ・すべての商品をそろえて商品の発送が完了したら、社員証のランクがアップする。

注文票

注文した人 桃村 様

3個入りのりんごを4ふくろ

ください。

式

りんごは ぜんぶで  個

社員証

エグゼクティブ プロデューサー  
 氏名 中島 拓也

毎日安い! 附特マーケット

## 観点別評価

知・技

乗法で答えを求める注文票を読んで、“●個ずつ×いくつ分=”と立式し、商品の総数を求めることができた。

思・判・表

商品が同じ数量でまとまっているときは乗法で、一つ分の数量が異なるときは加法で立式し、注文票の内容に応じて答え  
 を求めることができた。

学 び

注文票の内容に応じて立式し、答えを求める課題に繰り返し正しく取り組む姿が見られた。

## 関連する授業づくりの手順

知識及び技能の指導の計画を立てる

思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

R研で毎時間の授業の評価・改善



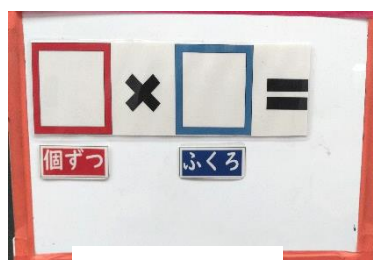
### 乗法の式が表す意味を理解するための働きかけの工夫

注文票の“●個ずつ”“いくつ分”のキーワードが表す数量を確かめて、それらの数字を赤枠(被乗数)と、青枠(乗数)に書き込むことで、乗法の式が表す意味を理解できるようにした。



みかんを5個ずつ6ふくろ  
 くださいってことは、  
 $5+5+5+5+5+5$ ..  
 計算が大変..

かける君を使ったかけ算  
 なら、  
 $5\text{個}\times 6\text{ふくろ}=30$   
 かけ算便利!



かける君

同じ数ずつまとまっている  
 場合、赤枠に1つのふくろや  
 パックに入っている商品の  
 数を書けばいいね!

青の枠には商品をまとめて  
 いるふくろやパックの数、つ  
 まり“いくつ分”を書けばい  
 いね!



### 自分で正誤の確認をしながら学習を進めるための教材の仕組みの工夫

立式して求めた答えが正しいか自分で確認できるように、立式・計算した後に実際に商品  
 をそろえる活動を設定した。また、乗法が使えない場面(商品一つ分の数量が異なるとき)  
 の注文を交えることで、乗法の式が表す意味を理解しているかどうかを確かめながら学習  
 を進めるようにした。

3個入りのなしを  
 4ふくろください

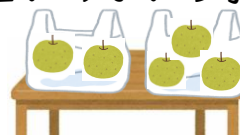
$3\text{個}\times 4\text{ふくろ}=12$   
 全部で12個必要だ。



実際になしをそろえて  
 みよう。 $1\cdot 2\cdot 3\cdot \dots 12$ 個  
 よし、間違いなし!

2個入りのなしを  
 1ふくろ、3個入  
 りのなしを1ふくろ  
 ください

これもかけ算だな。  
 $2\text{個}\times 2\text{ふくろ}=4$   
 全部で4個必要だ。



そろえてみよう。2個と3  
 個..5個。あれ?違う!  
 同じ数ずつまとまってい  
 ないとかけ算は使えない  
 んだ!

## 考察

□グループの児童それぞれの指導内容や学習進度の違いなどから、同一教材で学習しながらも、個別学習に  
 なってしまふことが多かった。  
 →乗法で必要な商品の総数をそろえたものを、除法を学習する児童が受け取り、その商品を分けるようにするな  
 ど、児童同士の課題を関連づけて進められれば児童同士の対話的な学びにつながったと考えられる。